

麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業について

1 経過

麒麟のまち連携中枢圏事業として既の実施している「地域食堂」事業を基盤に、孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの構成団体の拡充や、「つながりサポーター」養成研修の共同実施、物流業界との包括連携によるフードサポート事業を、今後、1市6町で連携した取組を進め、地域共生社会の実現を推進していくこととなった。

〈麒麟のまち創生戦略会議〉

- ・令和元年11月5日 圏域での地域食堂の推進を決定
- ・令和4年2月8日 圏域に食支援のためのロジ・ハブ拠点を整備することを確認

2 現状

各市町の現状は、単独の自治体では予算が限られており、マンパワーの不足などが問題点として挙がっており、1市6町で連携して取り組むことで、圏域全体の孤独・孤立対策を推進していくことが可能であると考えます。

3 連携事業等

(1) 「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」の推進

孤独・孤立対策に係る知見や活動実績がある団体、賛同団体等で構成し、官民連携による孤独・孤立対策を推進していく。

(2) 社会的孤立防止のための「つながりサポーター」の養成

支援が届いていない方・世帯を早期に支援につなげていくために、社会的孤立を解消するための「つながりサポーター」の養成を行う。

(3) 「食支援のためのプラットフォーム」の形成

ロジ・ハブ拠点を活用し、全国の連携企業・団体からの寄付食材を受け入れ、物流業界とも連携を図り、地域食堂をはじめとした食を通じた居場所や生活困窮者等への支援体制を構築する。

〈ロジ拠点〉 鳥取市中央人権福祉センター

〈ハブ拠点〉 鳥取市河原人権福祉センター、鳥取市気高人権福祉センター、八頭町中央人権啓発センター、新温泉町社会福祉協議会

(4) シンポジウム等の開催

孤独・孤立問題を社会全体で考えるための機運の醸成と取組の周知を図るために、シンポジウムの開催や啓発を行う。